## 2-(4) 岐阜薬科大学キャンパス整備方針の決定について

### １．決定整備方針

現在、岐阜薬科大学のキャンパスは

・本部キャンパス（黒野地内　岐阜市大学西１丁目 25 番地 4）と

・三田洞キャンパス（三田洞地内　岐阜市三田洞東５丁目６番１号）に分散

⇒　**本部キャンパスの近接地**（**南側**又は**西側**）にキャンパスを**整備、統合**する。

**最終整備地**は、今後策定する**「基本構想・基本計画」**で定めていく。

### ２．これまでの経緯

1932 年　岐阜薬科大学の前身である岐阜薬学専門学校を九重町にて創設

1965 年　現在の三田洞キャンパスへ移転

**2010 年**　岐阜大学との連携（連合大学院等）による研究機能の強化、学生、教職員の交流深化を図るため現在の**本部キャンパスへ本部及び研究室を一部移転**

**2012 年**　本部キャンパス移転後の課題について検討するためキャンパス整備方針についての**検討会議を設置**

⇒　以来、協議を重ね、方針決定に至る。

### ３．本部近接地とした理由

**①本部キャンパス研究室の狭隘（きょうあい）化の解消**

②国の教育カリキュラムの改訂で必要となった**少人数教室の整備**

**③三田洞キャンパスの老朽化・機能不全**

の課題に対応する必要がある。

⇒（整備、統合による）**経済性、**（学生を確保するうえでの）**利便性**

名古屋大学と岐阜大学の法人統合を視野に入れた**岐阜大学との連携の強化拡充**

医・薬・工・獣が揃う全国屈指の**学術研究拠点の形成**

東海環状自動車道岐阜 IC の開通による**交通の利便性に優れた立地**

⇒　市政への貢献

**地域産業の発展に寄与**（雇用創出、産学連携による産業力強化）

**地域医療への貢献**（医・看護・薬の交流を通したチーム医療の推進）

⇒　本部キャンパスの近接地が適地と判断

参考１　キャンパスの現状（学生数は 2018 年５月１日現在）

・本部キャンパス　　4～6 回生と大学院生（373 人）

施設：延床面積 13,710 ㎡（2009 年竣工、築 9 年経過）

・三田洞キャンパス　1～3 回生（385 人）

施設：延床面積 21,108 ㎡（本館、別館は 1965 年竣工、築 53 年経過）

参考２　想定整備施設の概要

・敷地面積　約 20,000～27,000 ㎡

・整備施設　講義・実習棟、研究棟、体育館、運動場等

・整備施設の延床面積　２万数千㎡程度（運動場を除く）

# 岐阜薬科大学本部キャンパス近接地　位置図